

1	表題 (課題) 名	建設工事現場での『安全の見える化』について	
2	工事 (業務) 名	R2・3吉田下中野電線共同溝工事	
3	受注者名	株式会社 水倉組	
4	工 期	令和3年 4月 5日 ~ 令和4年 3月18日	
5	担当技術者 (立場) 名	現場代理人	(さとう さとし) 佐藤 智
6	担当主任監督 (調査) 員	黒埼維持出張所長	
7	課題区分名	⑥安全管理	
8	工事 (業務) 概要	国道116号吉田下中野地先において電線共同溝及び道路改良工事を施工。	
9	【施工における 課題・問題点 等】		
本工事は、国道116号燕市吉田下中野地先において、①上り車線側の電線共同溝敷設 ②上り車線側の歩道の整備 ③本線車道の切削オーバーレイ を順に施工し、歩行者等の安全確保や沿道の防災機能及び景観の向上を図る事を目的としています。 施工における問題点は、1. 施工地は電線等の架空線が多く、信号及び照明の柱が複数あることから切断や破損による公衆災害 2. 強風による安全施設等の飛散及び吊荷作業時の災害 3. 既に下り車線側の歩道の整備が終わっているため、電線共同溝等の施工スペースが極端に狭いこと に対する対策が重要となります。			
10	【実 施 内 容】		
主な実施内容としては、下記の5項目です。 ・ホワイトボードに現場平面図及び危険箇所を印刷した『現場危険箇所マップ』に当日の作業形態及び安全指示事項の追記を行い朝礼時に周知し、作業前に危険箇所を現地に於て全作業員で確認しています。 ・現場内2箇所に『簡易設置型移動式カメラ』を設置し、パソコン又はスマートフォンで現場安全施設の状況を夜間及び休工日に適宜確認しています。 ・『警報装置付き風速計』を現場内に設置し、移動式クレーン作業時の作業中止基準を速やかに把握するために活用しています。 ・施工スペースが狭く、民地近くまで重機が接近して作業する必要があるため、『表示付きの騒音振動計』を官民境界付近に設置して、適正な作業の確認に活用しています。 ・排水構造物施工時には、バリケードを置けるスペースが無いため『単管柵』に替えて対応しました。			
11	【実 施 結 果】		
『現場危険箇所マップ』は、当日作業形態にある架空線等の危険箇所をわかりやすく特定できています。また、工事用車両出入口など他工種間での打ち合わせにも活用できています。 『簡易設置型移動式カメラ』は、現場安全施設の状況を何時でも確認することが出来るため、強風や大雨が予想されるときに有効に活用できています。 『警報装置付き風速計』は、風速に応じて回転灯の色が変わるので、吹流しより把握が容易です。中止基準が明確になることから、現在まで強風による災害の発生もなく、資機材飛散等の苦情も発生していません。 『表示付きの騒音振動計』は、現場の進捗に合わせて移動しながら測定記録を継続中です。作業現場近くで表示しているので作業員の注意喚起にもなっています。現在まで苦情も発生していません。 『単管柵』は、従来の単管バリケードに比べて設置撤去に時間がかかりましたが、省スペースで立入禁止措置が出来ました。			

(様式—2)

【実 施 内 容 等】

『現場危険箇所マップ』の活用

特徴：日々の作業位置により変化する危険箇所をわかりやすく特定できる

朝礼時：作業形態及び危険箇所の確認

作業前：危険箇所の全員確認（電線共同溝）



現場危険箇所マップ



作業前：危険箇所の全員確認（歩道改良）



『簡易設置型移動式カメラ』の活用

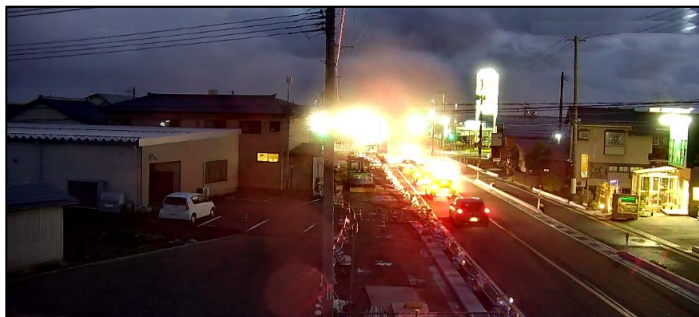
特徴：100V電源が確保できれば、どこでも設置可能

現場内設置

日中カメラ映像



夜間カメラ映像



(様式—2)

【実 施 内 容 等】

『警報装置付き風速計』の活用

特徴：回転灯の色で現在の風速が把握できる

現場内設置



風速表示 回転灯の色に応じた対策



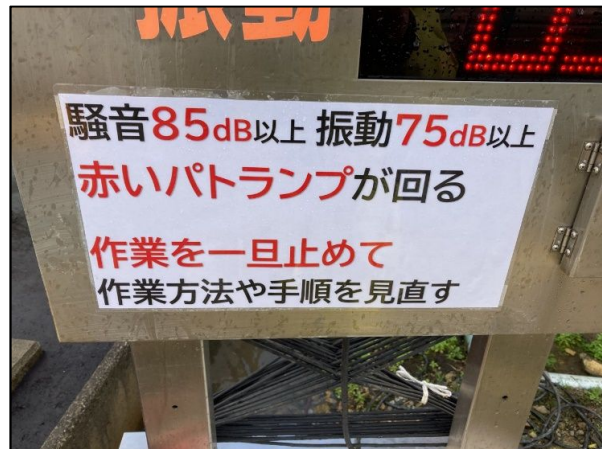
『表示付きの騒音振動計』の活用

特徴：現在の騒音振動値を表示し、USBメモリーに記録できる

現場内設置



現場での基準値と対応の表示



『単管柵』の設置

特徴：バリケードより省スペースで設置できる

設置状況

